

清沢満之 (きよざわ・まんし) 1863~1903

宗教哲学者・仏教思想家 ~明治が生んだ天才的宗教家~

出生 文久3年6月26日(1863)、尾張藩下士徳永永則の長男として名古屋黒門町(現・名古屋市東区黒門町)に生まれる。幼名を満之助といい、建峯・骸骨・石水・臘扇・浜風などと号した。清沢は結婚後の姓である。

履歴 真宗大谷派の僧として得度(1878)の後、東京帝国大学文科大学哲学科、同大学院で宗教哲学を専攻、抜群の成績を残す。京都府立尋常中学校校長となった(1888)が、後に辞任し禁欲生活を始める(1890)。結核に苦しみながら、真宗の仮名聖教などに親しみ、著作や雑誌を刊行するなど、精神主義を提唱して革新的な信仰運動を展開。宗門改革運動により一時大谷派を除名されるが、のちに真宗大学(現大谷大学)初代学監(学長)に就任した(1901)。

事績 東京に私塾浩々洞を設立(1900)し、暁鳥敏・佐々木月樵・多田鼎らと雑誌『精神界』創刊した(1901)。仏教の真意を難しい術語をあまり使わないで一般人に伝えるような雑誌をつくりたい、という思いから清沢は毎号続けて論文を書き、浩々洞で日曜講話も開き多数の聴衆を集めた。賛否は分かれ批判と反論の応酬もあったが、大きな反響を呼び起こした。西田幾多郎もその影響を受けた一人である。仏教における近代的信仰の樹立者で、明治宗教界においては、キリスト教の内村鑑三と並んで双壁であったといえる。

評価 浄土真宗の仏教者であったことから、宗門の内部では読まれ、学ばれてきたが一步外に出ると知る人が少ない思想家とされてきた。一方で、西洋哲学を媒介とした仏教信仰への到達を目指し、独創的な着想で廃仏毀釈後の仏教の危機的状況に立ち向かい、明治精神界に大きな影響を与えた稀有な宗教家との呼び声も高い。また、哲学・思想・宗教全てに通じ、しかも統一的に把握し、信仰を形成した人はほかに例をみないともいわれている。

代表作

『宗教哲学骸骨』 仏教の縁起論を有限・無限の関係を基想して宗教全体を貫く普遍的な真理を探究した結果、他力門仏教へと向けられる。1892年に出版され、翌年のシカゴ万国宗教大会で英訳され好評を博した。全集第1巻に収録。

『精神界』 清沢が中心となって浩々洞のメンバーが編集した雑誌。精神主義に関する論文が多数掲載された。創刊(1901)の翌々年に清沢は没するが、雑誌は大正期の1918年まで発行された。ここに清沢が発表した論文は全集第6巻に収録。

キーワード 精神主義 清沢が晩年に雑誌『精神界』を場として展開した信仰運動である。清沢は、精神主義とは、実行主義、主観主義、内観主義であると表明している。清沢の信仰の総決算であるとともに有力な宗教思想として一世を風靡した。また、真宗の近代教学の源ともなり現在に至っている。

キーワード 学校の経営と講義、宗門学制の改革などで体を酷使していたうえに、禁欲生活による苦行が1890年頃から始まる。塩を絶ち、そば粉を水に溶かして食し、松脂をなめるという徹底した行者生活であったようだ。こうして1894年に結核と診断が下される。この後、須磨垂水での療養生活が新たな展開を生み、血を吐きながら自分の三部経(『歎異沙』『阿含経』『エピクテタスの語録』)をさらにひもといていったといわれている。

最期 1903年(明治36)6月6日、肺結核のため愛知県碧海郡大浜町(現・碧南市)の西方寺で死去。享年39歳。



Great Works 08

清沢満之全集 全9巻 岩波書店 2002~2003年 <188.7/309>

解題 清沢満之の全集は戦前に2度刊行され、戦後も法蔵館から出版されている(『清沢満之全集』全8巻 188.7/117)。本全集は、清沢の没後100年を記念して、全著作を新たに編集したもので、テーマ別に9巻に編成されている。

内容

第1巻 = 宗教哲学 宗教哲学骸骨〔法蔵館 1892年〕 The skeleton of a philosophy of religion. [三省堂 1893 宗教哲学骸骨の英訳] 宗教哲学〔1892~93年 真宗大学寮での講義ノート〕 宗教哲

- 学初稿〔西方寺所蔵の自筆原稿を翻刻〕他
- 第2巻 = 他力門哲学 在床懺悔録〔1895年 垂水洞養寺にて療養中のメモ 西方寺所蔵の自筆原稿を翻刻〕
他力門哲学骸骨試稿〔自筆原稿を翻刻 2ヶ月にわたる思索メモ〕 有限無限録〔1899.6~1900年春までの半年にわたる私塾での思索メモ 自筆原稿を翻刻〕 転迷開悟録〔1899.9~1900年 およそ半年かけての手記 自筆原稿を翻刻〕他
- 第3巻 = 哲学論集 哲学〔哲学館 1888年〕【雑誌『哲学館講義録』を翻刻】 論理学〔倫理学試稿〕〔1889~1890年頃西方寺所蔵の自筆原稿を翻刻〕他 心理学〔哲学館での講義メモ〕他 宗教学〔宗教要旨〕〔1892年 自筆原稿を翻刻〕他
- 第4巻 = 哲学研究史 西洋哲学史試稿〔西方寺所蔵の自筆原稿を翻刻〕他 【哲学研究論文】経験世界〔1888年 『愛知学芸雑誌』第2号を翻刻 「文学士徳永満之」の記名あり〕他 哲学研究ノート〔1884~1886年 東京大学時に書いたレポート類〕他
- 第5巻 = 西洋哲学史講義〔1889~1894年 真宗大学寮での講義ノート 主に古代ギリシャのソクラテス前哲学~近世哲学ハーバート・スペンセルまで〕
- 第6巻 = 精神主義 【雑誌『精神界』所収論文】精神主義〔1901年〕他 【精神主義論文】信の成立〔1897年〕他 養病対話〔抄〕〔法蔵館 1902年 藤岡了空肺結核についての対話〕他
- 第7巻 = 仏教の革新 【雑誌『教界時言』所収論文】 教界時言発行の趣旨〔1896年 稲葉昌丸、井上豊忠らと、東本願寺の改革を唱え、『教界時言』を発行した〕 教育の改革〔真宗大学、中学の生徒へむけての執筆 主に『無尽灯』『政教時報』を翻刻〕 教育演説集〔1889年 東本願寺の大師堂（御影堂）の上棟式の講演会における記録〕他
- 第8巻 = 信念のあゆみ - 日記〔1883年 東京大学予備門における生活の記録や帰省先の名古屋から東京に向かうまでの旅行記録にはじまり、1903年 大浜西方寺に帰郷するまでの日記や記録を随時書きとめたもの〕
- 第9巻 = 信念の交流 - 書簡〔現在 306通の書簡が知られているが、自筆書簡 52通を翻刻しそれ以外は既刊の全集などに収められたものを収録 1888年の大井清一宛てをはじめとして、1903年の石川吉治宛てが最後に確認されている〕資料 補遺 年譜 著述目録

参考文献 ~この人をもっと知るために~

< 図書 >

- ☞ 「精神主義」の求道者たち / 福島栄寿著
京都光華女子大学真宗文化研究所 2003年 249p <188.72 / 46> 資料番号 21644398
- ☞ 清沢満之の思想 / 今村仁司著
人文書院 2003年 242p <188.72MM / 44> 資料番号 21600655
- ☞ 清沢満之 その人と思想 / 藤田正勝・安富信哉著
法蔵館 2002年 294p <188.72LL / 36> 資料番号 21486147
- ☞ 清沢満之語録 / 今村仁司編訳
岩波書店 2001年 490p <188.74 / 16> 資料番号 21653548
- ☞ 「他力」を生きる 清沢満之の求道と福沢諭吉の実学精神 / 延塚知道著
筑摩書房 2001年 244p <188.72KK / 34> 資料番号 21398151
- ☞ 清沢満之の生と死 / 神戸和磨著
法蔵館 2000年 206p <188.72JJ / 32> 資料番号 21301379
- ☞ 清沢満之と個の思想 / 安富信哉著
法蔵館 1999年 309p <188.72HH / 28> 資料番号 21168182
- ☞ 清沢先生の世界 / 金子大栄著
文明堂 1977年 122p <188.7 / 96> 資料番号 10285930

< 図書（部分） >

- ☞ 清沢満之 精神主義の仏教革新 / 脇本平也（浄土仏教の思想 第14巻）
講談社 1992年 p1 - 191 <188.6Z / 205 / 14> 資料番号 20523379
- ☞ 清沢満之 / 近藤信行著（言論は日本を動かす 第2巻）
講談社 1985年 p33 - 62 <281T / 22 / 2> 資料番号 12357166

< 雑誌論文 >

- ☞ 井上円了と清沢満之 その時代と精神 / 高橋直美著
井上円了センター年報（東洋大学井上円了記念学術センター）11 [2002] <Z051 / 545>
- ☞ 精神の<かたち> 清沢満之の「精神主義」を中心に / 川口順也著
文研論集（専修大学大学院）通号 39 [2002.3] <Z051 / 510>